

研究の背景・目的

紋別海岸防風保安林は、オホーツク海からの寒冷な強風から農地を守るため昭和33年～50年にかけて造成されましたが、その後海岸侵食が進み、林帯幅が80m→50m程度まで減少しました。林帯の海側では、侵食による林冠破壊と海岸線の接近による飛来塩分増加等の影響により、急速に疎林化が進行しています。

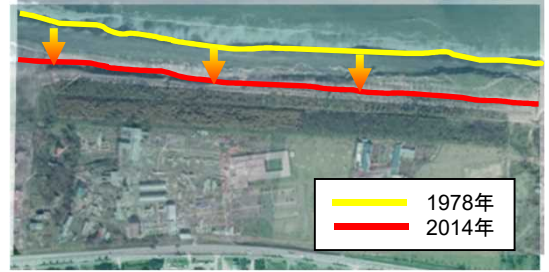
一方、陸側では密植造林地が過密化していることから、防風林を維持するため植栽・本数調整伐などの再整備が必要です。

本発表では、実施中の事業内容と今後の施業を検討します。



上:侵食(平成18年) 下:疎林(令和3年)

参考：海岸線比較



現在までの海岸林造成の取り組み

平成30年度の保安林整備計画策定以降、これまで2回の植栽試験を実施しています。

令和元年度 植栽試験

仕様	
面積	0.02ha
樹種	アカエゾマツ裸苗(1号)
植栽密度	A区: 3,000本/ha B区: 10,000本/ha
土質	重粘土
防風柵	合掌型H=2.00m



試験地防風柵



枯死した苗木(令和2年)



柵設置にかかる床堀

課題

- 【苗木の活着不良】
 - 植付2ヶ月で7%、翌令和2年に34%枯死
- 【生育難(重粘土土壌)】
 - 令和3年調査で61%枯死
- 【防風柵の施工性】
 - 埋戻しに購入土が必要
床掘残土の発生

令和3年度 植栽試験

仕様	
面積	0.04ha
樹種	アカエゾマツコンテナ苗(2号)
植栽密度	10,000本/ha
土質	A区: 現地土+砂質礫混合土 B区: 植栽用客土
防風柵	海側: 杭丸太H=2.65m ほか: 杭丸太+木製パネルH=1.20m



試験地防風柵



現地土+砂質礫混合土



植栽用客土

対策

- 【苗木】
 - ・コンテナ苗を使用
- 【土質】
 - ・砂礫を混ぜて土壌改良
 - ・客土土壌で育成
- 【防風柵】
 - ・床掘不要のプレーカ
打込柵で施工性向上

今後の展開

令和元年度植栽試験地では、今後ミズナラの補植を実施し、経過を観察するほか、令和4年度には新たにミズナラ・カシワの植栽試験地を作成し、樹種選定の一助とする予定です。

海岸防風林の成熟は、防風・防潮の機能維持に加え景観の向上という効果も付随するため、地域振興の観点からも重要度が高いといえます。

今後内陸部の紋別公園や国道、紋別空港などの保全対象を守り地域振興への一助とするため、森林の再生に向け取り組んでいきます。



オホーツク流水公園



オホーツク紋別空港